

「誰もが認め合い、ささえ合い、 働く喜びを分かち合える社会をめざして」 ～働きたい思いをはぐくみ、働く力を活かすために～ ＜報告＞



京都府公館レセプションホールにおいて、府民講座を開催しました。保護者、福祉、企業、教育関係者の方を含めて125人の参加がありました。寒さの厳しい日でしたが、「誰もが働く喜びを分かち合える社会に」との思いを持った方々が集まり、心が温まる場になりました。



講演 I 「障害のある人の働く力の発揮と社会参加」

「役割がある」という自信を！

講師 全日本特別支援教育研究連盟理事長
NPO法人障害者就業生活支援開発センターGreenWork21理事長
東京学芸大学名誉教授 松矢 勝弘 氏



【講演内容】

卒業後の豊かな社会生活の実現に向けて…

- ・平成25年4月から法定雇用率が1.8%から2.0%に改正されたことで、特別支援学校高等部卒業生の就職率が全国的に上昇し、昨年3月の卒業生の就職率の全国平均は30.9%であった。
- ・企業で生き生きと働く障害者に見られる共通の特徴
社会性に関するファクター（社会的マナーやコミュニケーションの方法等）
品質管理に関するファクター（正確に着実に作業ができる）
生産性の高さに関するファクター（目標達成に意欲がある）
手帳等における障害の重さは就業生活の実現に関係しない！
- ・これからは、障害者本人には、働く力を身に付け、企業就労に主体的にチャレンジすることが社会から期待される。そして、教育、福祉機関は障害者の働く力を育成するキャリア教育の役割が求められる。家庭においては、子どもがお手伝いなど自己の役割を実現できる機会を用意することが大切になる。
- ・キャリア教育とは、家庭教育、学校教育、学校外の地域教育、産業社会における成分を含む「人間が自己の役割と自分らしさを発揮していく力」を育むもろもろの試みである。
- ・池田太郎先生（信楽青年寮の設立者）「4つの願い」の一つ「無用の存在ではなく有用の存在と思われたい」とは、家庭や集団の中で「役割がある」と感じることで自尊感情や肯定的な自己理解の確立に関係するものである。

アンケートより

自分の存在を認めてもらうというのは、本人にとって大切なことなんだなと思いました。（保護者）

お手伝いをさせて自分であることを増やしたいと思った。役に立っているという思いを育てたい。（保護者）

キャリア教育の土台となる「必要とされている存在と思われたい」という当たり前の願いが実現するための家庭、学校、地域等のキャリア教育の成分の支えの大切さに共感し、学ばせていただきました。（一般）

知的障害の「4つの願い」について考えさせられた。高等部の生徒たちが「働きたい」と思えるように、また働くことの大切さや必要とされる喜びを感じられるようどのように教育を展開していけば良いか、課題を見つけた気がする。（教育関係者）

講師 有限会社エス・ケイ・フーズ取締役

中村 こずえ氏

【講演内容】

なんでも捉え方次第！
面白いことをしてくれる子たち。



・障害者を雇用しようと思ったきっかけ…

同じ系列会社で働く障害のあるA君と出会ってから、6年後に再会。働く姿を見て、「時間はかかっても貴重な戦力になること」に気づく。彼を育てたスタッフの力や自分の中にあった「差別感情」に気づき、障害者を雇用しようと思った。

・障害者を雇用してからのエピソード…

「Yくんが大量の注文でパニックになった」と社員から電話が入ったため、休憩させるように指示。同じことが再び起こり、今度は社員から「休憩させた」と事後報告があった。3回目に同じことが起きた時には、周りの社員が先回りをして「みんなで手伝うから大丈夫」と声をかけ、パニックにならずに済んだ。

Yくんの周りの社員の対応に感動。障害者雇用は、障害者を育てるのではなく、社員を育てることに繋がっている。

・障害者と出会う前と出会ってからの気持ちの変化

手がかかりそう → 覚えるまでに時間がかかっても、一度覚えれば40年間の戦力になる
コミュニケーションがとれない → 雑談やおしゃべりだけがコミュニケーションではない！
どうやって教えたらいいか分からない → 教え方を特別にする必要はない！
能力の低い人に給料を払うのはもったいない → 何をもって「能力が低い」と言うのか！

・「できる」とはどういう意味なのか

企業が求める能力とは「知能」のことではなく、「心」である。
障害者の長所「元気な挨拶、返事、遅刻しない、前向き、どんな仕事も嫌がらない、素直に指示を聞く、目標に向かって努力する、真面目」。心を育てることが親や教師の役目。

・「企業」「学校」「労働局」「家庭」が連携し、繋がっていくことが大切。

アンケートより

働くために何が大切かを子どもに伝えていきたいと思いました。お話を聞いて涙するところが何度もありました。本音でお話されたのが良かったです。これほど理解のある、あたたかい経営者の方がもっともっと増えてほしいと思いました。もっともっと多くの企業の方に聞いてほしいと思いました。

(保護者)

心を育てることが人を育てる。障害があっても、人の役に立って、生きがいを持っていくためにいろいろな機関と積極的に連携を持つことの大切さを感じた。「知る」ことの大切さ。

(教育関係者)

人との出会いが本当に大切だと思います。中村様のような企業の代表の方が増えることを保護者として切に願います。

(保護者)

障害者の雇用をもともと全く考えていなかったという感覚は、ごく一般的なものと共感しました。そこからきっかけを得て雇用し、その後多くの方を雇用し、社員の皆さんが育てているお話を伺い、とてもわかりやすく、障害者雇用の企業にとっての良い面が大変伝わってきました。

(保健・医療関係)



シンポジウム「働きたい思いをはぐくみ、働く力を活かすために」

パネリスト

株式会社福寿園

小池 真実氏

上野 俊介氏

御家族 上野 照子氏

医療法人 徳洲会 宇治徳洲会病院

岩崎 悠佑氏

木村 友哉氏

京都府立宇治支援学校

教諭

高嶺三重子

教諭

長濱 香織



【内容】

・会社での仕事について

「書類にハンコを押したり、水を運んだりする力仕事もしている。シール貼りやハンコ押しは、職場の中では一番知っていると思う。分からないことは先輩や色々な人に聞くようにしている。重たい水などを運んだ時に『いつも助かっているよ』と言ってもらえて嬉しい。」(木村友哉氏)

・企業で働こうと決めたきっかけ

「ビルメンテナンスの作業学習でアビリンピックに出場し、卒業後に京都府立京都障害者高等技術専門校に進学するきっかけになった。」(上野俊介氏)

・高等部の授業で卒業後に役に立ったこと

「分からないことは周りの人に聞き、助けを求めること。新しい仕事をする時にはメモをとるようにしている。メモをすればすぐに覚えられる。」(木村氏)

・余暇の過ごし方について

「お父さんと山歩きに行ったり、お給料を使って映画を観に行ったりしている。」(上野氏)

・進路選択にあたって、在学生の保護者に伝えたいこと

「本人の働く意思が一番大事。親はあれこれと心配してしまうが、そのことで本人の進路を狭めてしまわないように。できないと思っていたことも働いていく中でできるようになることもある。学校生活では、職場体験をすることで自分の将来をイメージする機会になるので大事にしてほしい。」(上野照子氏)

・職場での仕事ぶりや手立て等について

「班の一員として、なくてはならない存在。できそうな仕事から少しずつ作業を増やしていった。字を書く作業もあり、日記を書いてもらい練習を兼ねた。色々な作業ができるようになってきた分、注意が増えて問題もあったが、班の人と話し合うことで解決してきた。」(小池氏)

「彼の良い所は、時間や規律を守ることができること。3年間、欠勤、遅刻なし。そのことがベースになって、色々なことを覚え、できる業務が増えてきた。事務の仕事を整えることで、できる仕事を探した。物品の運搬作業をしてもらうようになり、他部署との関わりが増え、皆に周知してもらえる機会にもなった。」(岩崎悠佑氏)

・高等部での取り組みについて

「早い時期からインターンシップや現場実習の実施をしている。学校行事等を通して、協調性や自分らしく生き生きと活動する力、『生きる力』を身に付けていると思う。本人の『やりたい』『働きたい』『参加したい』気持ちを育てることが大事だと思っている。」(長濱教諭)

「進路相談を高2から始め、本人や保護者の希望を早い時期から聞くようにしている。実習などを通して本人に選択肢を示してあげることも大事。実現に向けて、様々に努力することに繋がる。」(高嶺教諭)



アンケートより

御本人のまわりのそれぞれの支え(親・学校・職場・地域)で力をつけられたことがよくわかりました。
(保護者)

働きたい気持ちを大切に、また、その気持ちの育みを学校の授業をとおして伸ばしていきたいと思いました。
(教育関係者)

私も病院職員ですので、徳洲会病院さんのお話を伺えて、病院の雑務の多さについて、とても共感し、木村さんが必要とされる人材になっておられること、そしてこれからますますなくてはならない存在になっていかれるだろうと思いました。
(保健・医療関係者)